

苫小牧市民文化ホール進捗について

- (仮称) 苫小牧市民ホール整備運営事業のこれまでの進捗
- ・要求水準書素案公表 令和2年9月29日
 - ・実施方針公表 令和3年2月8日
 - ・募集要項等公表 令和3年7月9日
 - ・優先交渉権者決定 令和4年3月25日
 - ・事業契約の締結 令和4年6月30日公表
「氷都とまこまいパートナーズ株式会社」
契約期間令和4年6月13日～令和28年3月31日まで
契約金額 16,448,624,244円
 - ・説明会の実施 令和4年7月23日(市民向け) 8月4日(企業向け・利用団体向け)

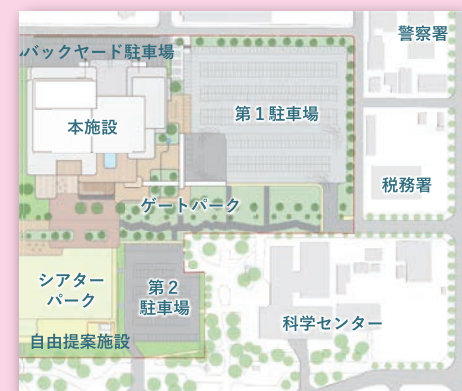


活動が溶け合う施設計画 (設計コンセプト)

苫小牧市のサードプレイスを実現



ゲートパークがつなぐ配置計画



説明会等で指摘された懸念

- ・ホールBの座席が可動式。アイビープラザ〔1998年建築〕の可動式座席は人の移動でガタガタ動く好ましくない。
事業者回答：技術の進歩、材料の変更などもあり現行品はクレームが出ていないと聞いている。ご意見を受け止め計画を進めたい。
- ・ホールの利用料が高い、特にホールB。文化会館に比べ2倍近い設定(上限額)になっている。
市の回答：施設整備や管理運営コスト、受益者負担を考慮し条例設定。負担軽減を図る仕組みづくりについて事業者を含め庁内協議を進めている。令和5年度以内に結論を出す。

会派の対応

・令和5年度予算編成及び市政執行に関する政策要望・提言の中で「苫小牧市民文化ホール建設・運営等への地元活用」として本事業への参画意欲ある地元事業の受注機会が図られるよう市として受注者である「氷都とまこまいパートナーズ(株)」へ継続的な働きかけを求めています。また「苫小牧市民文化ホールの利用料減免・助成制度」として現段階において、市民に対する減免・助成制度は示されておりませんが、文化活動等の停滞に繋がることがないように十分に考慮した減免・助成制度を確立することを求めています。今後に注目願います。また説明会に使用されたスライド資料(公表用に一部整理しています)が市のホームページに公開されています。



会派視察について

3年ぶりに視察を行いました。

8月30日(火曜日) 北海道 北見市

- ・北見市【窓口業務改革】
「書かない窓口」
《取組》

窓口業務の受付・案内・事後処理の場面で必要な情報を整理しアナログツール化し、各課の申請書様式も標準化。
窓口の受付業務にシステムを活用し住民異動届を起点とした「書かない窓口」や関連手続きの自動判別などを実施。



- ・苫小牧東港区【国際コンテナターミナル】

苫小牧国際コンテナターミナル(株)から現状の運行状況、課題や問題点について情報交換。
実際の港湾作業現場にてRTG(タイヤ式門型クレーン)ガントリークレーンの荷役作業を体験。



第24回 定例会の代表質問で論戦！



代表質問

第24回定例会は、9月2日(金)から9月15日(木)までの日程で開催され、市長選挙後初となる議会定例会のため、今後4年間の方向性を定める「市政に臨む基本方針」が市長から示され、この内容に対して、会派改革フォーラムを代表し、越川議員が代表質問で登壇しました。

越川議員 代表質問で課題を提起！

【スマートシティ構想】デジタル技術を活用した構想が示されたが、行政サービスの拡大として、単身高齢者の見守りサービスに対する検討を求めるとともに、各部門・各課の多岐にわたる事業であるため、目標年次を定め進捗管理の「見える化」を求めました。

【行政改革】業務効率化に向けた業務量の見直しなど、いかに無駄を省き、市民サービスの向上を図るかを考え、事業のスクラップ・アンド・ビルドが必要と考えており、事務作業の自動処理など、ICT技術を活用した取り組みを求めました。

【市営住宅の整備】今後の税収減を見据え、管理費用を考慮すると、できるだけ市営住宅の管理戸数を減らすべきと考えており、入居希望者の必要戸数確保も重要ですが、民間アパートの借上げにより、市営住宅と同程度の家賃支払いで済むような、ソフト面での対策を検討することを提案しました。

【旧サンプラザビル問題】地権者との対応については駅周辺ビジョンの考え方を示し協議する考えと聞いていますが、1日も早い解決に向けて精力的に協議を進めることを求めました。

【駅周辺ビジョンの策定】今後、具体的な事業の整備手法や資金フレームなどを検討することになりますが、「まちなか居住人口増加の取り組み」、「大学サテライトキャンパスの誘致」、「全天候型の子どもの遊び場整備」を提案するとともに、広く市民の意見を聞く場を設けることも求めました。

【公共交通】他都市では既に実証試験を実施しているため、都市再生コンセプトプランのエリア内において「とまこまい版MaaS」の早期導入について前向きな検討を求めました。また、新千歳空港からの2次交通ハブ機能を高めるため、空港線の苫小牧南進(スルー化)の早期実現も求めました。

【みなとエリアのにぎわい創出】ぶらっとみなと市場をはじめ、みなとエリアのにぎわい創出に向け「ホッキ貝のオブジェの設置」や「ホッキストリートの整備」を提案しました。さらに、港のポテンシャルを発揮する北海道ナンバーワンの「ウォーターフロント開発」を提案しました。

【ウトナイ地区勇の原公園整備】令和6年度から3ヶ年かけて整備予定の大型公園ですが、障がいがある・なしに関わらず、楽しく遊べる「インクルーシブ遊具」の早期設置及び段階的な開設を求めます。また、近隣のウトナイ2号公園については、遊具の統合を行い、テニスコートがある公園にリニューアルすることを提案しました。

【エゾシカ捕獲数拡大とジビエの活用】エゾシカの増加に伴い、市民生活への影響も深刻化しているため、早急な対応が求められています。先進事例として、捕獲とジビエ活用のマッチング事業や、新たな仕組みの寄付及び出資などによって対応している事例もあるため、苫小牧でも前向きに検討するよう提案しました。

【英語検定受験費用の補助】現在、小学校でも本格的な英語授業が始まり、今後の国際化の推進や子どもたちの英語力の底上げを図るため、小学生・中学生はもとより高校生についても英語検定受験費用の受験者全員の受験費用補助を求めました。



新しい津波浸水想定について～津波に備える

令和3年7月に北海道が太平洋沿岸の新しい津波浸水想定を公表しました。新たな津波浸水想定では過去に発生した地震や津波の履歴・痕跡から数百年から千年に一度発生するレベルの津波を想定しております。現在、苫小牧市としても平成24年度に公表した津波ハザードマップを改定しており、令和4年度中に新たな津波ハザードマップを公表する予定です。新たな津波ハザードマップが完成した後は、全世帯に配布されます。

苫小牧市の津波対策における今後の取組みとして、津波避難ビルのさらなる選定→公共施設の新改築に合わせて津波避難機能を付加→避難施設等の新規整備への取組みを進め「津波避難困難地域の解消」を目指します。改革フォーラムとしても市民の安心安全に向けて取り組みを進めて参ります。

令和3年の津波浸水想定①

◆沿岸の最大水位	9.7m(真砂町)
	H24想定では8.5m(元町)
◆浸水面積	10,224ha
	市面積(5万6千ha)の約18%が浸水
◆到達時間(第1波)	40～58分
	H24の想定では49～57分
◆犠牲者	4万人
◆避難者	6万2千人
	冬の夕方の地震・津波

令和3年の津波浸水想定②

代表地点	影響開始時間(分)	第1波到達時間(分)	最大水位(m)	影響開始時間(分)	第1波到達時間(分)	最大水位(m)
安平川河口	15	45	8.3	26	57	8.1
苫小牧西港	15	47	8.1	25	51	6.4
元町	13	43	8.9	22	51	8.5
錦岡	12	42	8.8	21	49	8.2
樽前	10	41	8.7	-	-	-

